

## おわりに

「クラス会議をやってみたいけどやり方がわからない」

という声にお答えして、前著『赤坂版「クラス会議」完全マニュアル——人とつながって生きる子どもを育てる』を書かせていただきました。

話し合いをマニュアル化することに抵抗はありましたが、いくら意味がわかっても方法がわからないと取り組めません。クラス会議を実践したい先生方の最初の一步にさせていただくために、方法の部分を前面に出して書きました。

しかし、読者のみなさんはとても鋭くて、私の執筆意図をしっかりと見抜いて読んでくださった方もいたようです。

「マニュアルと書いてありますが、単なるマニュアルではありませんね。書いてあることは、集団の育て方であり、学級経営の考え方ですね」

といった反応を多くいただきました。まさに「わが意を得たり」の気持ちで嬉しくお聞きしました。その一方で、「マニュアル」として活用して成果を挙げた方もいます。ちょうど昨日、こんなお話を

お聞きしました。

ある先生が、学級崩壊状態のクラス（小学校）を担任することになり、目の前が真っ暗になったが、前著を手に、隅から隅まで追実践をしたそうです。すると、みるみるクラスは立ち直り、クラス会議のもつ力のすさまじさを実感したとのことでした。

いささか「できすぎ」の話のような気がしますが、おそらくこの先生は、マニュアルとして活用しながら、「なぜこれをするのだろうか」とその意味に立ち返っていたのだと思います。意味がわかると応用が利きます。クラス会議の考え方を理解すると、それはさまざまな場面で教師の立ち居ふるまいに表れて影響力を発揮するようになります。指導の効果を高めるには、その考え方を理解することです。

本書では、前著で書き切れなかった考え方の部分に焦点を当てて書きました。クラス会議では、子どもたちが幸せに生きるための多様な価値、態度、スキルを伝えます。それにどういう意味があるのかを、さらに詳しく書きました。活動しながら、繰り返し繰り返し子どもたちに語っていただければと思います。

さて、本書は私としては異例なくらい楽しく書かせていただきました。それは、執筆を支える多くのクラス会議実践者と、書きながらわくわくするようなやりとりをしながら作業を進めることができただからです。執筆に際し、重要な示唆をたくさんいただきました。特に、蜂谷太郎先生、弥延浩史先

生、高橋亮太先生、近藤佳織先生には、本書の方向性を示していただきました。心から感謝いたします。

また、私の講座にもおいでくださり、クラス会議を勉強した上で、こうした書籍を出してくださるほんの森出版の兼弘陽子さんには前著に続き本当にお世話になりました。

本書が子どもたちの幸せに生きる力の育成に寄与されることを願ってやみません。

二〇一五年一月

赤坂 真二